
魔法使いと一般人

河野 蒼空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法使いと一般人

【Nコード】

N5183P

【作者名】

河野 蒼空

【あらすじ】

天使。それは再生と創造を象徴する存在。その天使を巡る戦いに、何故か巻き込まれた自称一般人、玲音と、天使を探す魔法の天才、タ也。正反対の二人が出会った時、何かが現れる。！？
クリムゾン・ブルーシリーズ、天使編。

プロローグ

『日本に渡れ？』

綺麗な発音の英語で、一人の青年は疑問の声を上げた。

光に当たって光る艶やかな黒髪に、吊り気味で切れ長の、黒い瞳。綺麗に整った容姿は、黒髪黒目という点を踏まえても、日本人には見えない。

すらりとした手足には、髪に溶け込むような黒い服を着用しており、彼を実年齢よりもはるかに大人びて見せていた。

そんな美しい顔をした青年に向かって、

『不満か？』

青年の前で座っていた男もまた、流暢な英語で聞き返した。

それに青年は、困ったような微苦笑を浮かべ、

『いえ。……急だったのですから』

『お前は、もう十七だろう？ 魔術協会の信頼も厚い。本部に向かつて大丈夫だ』

『ありがとうございます』

戸惑い気味にお礼を述べた美青年は、男に向かって頭を下げた。するとそれに男は、先ほどから何かを書き込んでいた紙を青年に手渡して、

『移動の書類だ。荷物をまとめ、明日にはここを出る。本部のお偉いさんが待ってる』

『……分かりました』

『色々不安はあると思うが 大丈夫だ。お前は天才なんだから』
『そのような言葉、僕にはもったいないです』

はは、と乾いた笑いを青年は漏らし、部屋を出るドアの方へと歩き出した。

『あ、そうそう』

ドアノブを握ったところで、青年はそんな声を上げた。そしてそのまま、くるりと振り返る。

その顔には、笑顔が貼り付いていた。誰もが見て安心する、完璧な笑顔がそこにはあった。

そんな笑顔のまま、青年はすらすらと流暢な《日本語》で、言った。

「俺、本当はまだ十五だよ。でもそれ言っちゃうと、あんたら俺を怖がって殺しちゃうかもだから、言わなかっただけ。あと、日本行きは知ってたよ？　一ヶ月前、日本にいる部下が知らせてくれた。魔術教会も、馬鹿な奴らが増えたねえ。特にイギリス支部は、さ」
長々とそんな台詞をいい終えた青年に向かって、男は不思議そうな表情のまま、

『何語だ？』

と聞いてくる。

それに青年は、やはり柔らかく微笑んだまま、

『日本語で、ありがとうございました、という意味ですよ』

今度は英語でそう言うってから、青年はドアを開き、部屋の外に出る。

しばらく廊下を歩き、彼は後ろを控えめに振り返った。

人影はない。

「んま、そんなのあてになんないけどね」

先ほどまでの硬派そうな口調とは裏腹に、冗談混じりに青年は肩をすくめた。

そして、小さく、

「半径五十メートル内での魔力を探知・捕縛」

と唱える。

するとその瞬間、青年の手から光が迸り、大きく円を描くように蠢く。

およそ十五歳では使えることのできないほど高度な、魔法。くるくると回る光の円盤を見つめ、青年は笑みを浮かべた。

「反応なし、か」

そううなずいてから、彼はポケットから携帯を取り出す。

盗聴されないよう、拒絶の魔法シャットアウトがかけられた、携帯電話。

それを青年は操作し、番号を入力し、音声電話のボタンを押した。

「……あ、もしもし椿くん？ うん俺、夕也。久しぶりだね。……

うん、そう。日本に行けることになった」

通話をしながら、彼は廊下を歩き始める。もちろん光の円盤はそのままだ。

「帰ってくんなくて、ひどいなあ。……うん、うん。魔術協会本部

の実働部隊隊長に任命された。……最年少記録？ そうなの？ 俺、

十七って偽ってるのに？ ……ふーん、じゃあ、俺は一番年下か」

隊長なのにね、と笑いながら、青年は歩く。ずんずん歩く。

そして、今まで笑っていた顔から、初めて笑顔を消し、青年は立ち止まる。

「そっちはどう？ 魔力保持者の君から見た、日本という国の感想は？」

今までのおちゃらけた口調ではなく、真剣さが混じった声音で、

青年は電話の向こう側の相手に質問を投げ掛けた。

しばらくの沈黙。

「……………へえ」

しばらくの間の後に、青年はそんな一言の感想を漏らした。

それから、再びたわいもない世間話をしばらくしてから、彼は電話を切った。

「……………なるほど、ね」

パチンという音と共に携帯を閉め、青年は、後ろにあった窓の外
の光景を眺める。

澄みきった、雲一つない青空。

事実とあまりにも矛盾している、綺麗な光景に、思わず青年は苦笑してから

「魔力保持者には住みにくい、腐りきった国……か」

面白いじゃないか、と呟きながら、青年は空に向かって微笑んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5183p/>

魔法使いと一般人

2010年12月16日00時20分発行